

「いろいろな三日月」

○という図形を見ても、月にも太陽にもただの円にも見えます。☾という図形なら、一発で「月」とわかります。三日月の形というのは、月齢 2~3 の月の形を表現しているだけではなく、「月」という天体を象徴する存在でもあるわけです。低学年の子どもでも、「月を描いてごらん」と言うと、大抵は三日月の絵を描きます。小さな子どもにとっても、三日月はとても親しみやすい月の形なのでしょう。



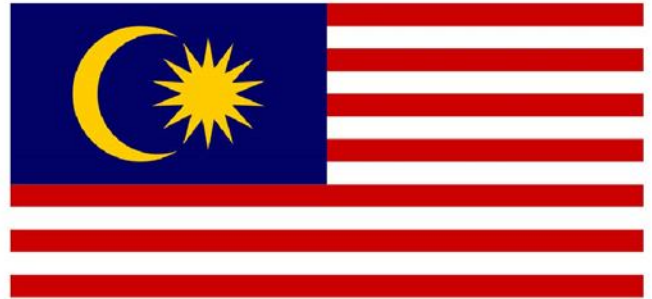
「2年生の子どもが描いた三日月」

なかなか見事な水彩画です。三日月の形状を、かなり正確にとらえています。ただし、三日月の向きは正しくありません。もっと斜め（背を右下）にして、沈んでゆくはずです。



三日月はさまざまな意匠に使われ、洋の東西を問わず、親しまれている月の形と言えます。たとえばクロワッサンというパンがありますが、あれはフランス語で「三日月」"croissant" という意味です。確かに形が三日月に似ていますね。

また、イスラムの諸国では、三日月は宗教そのものの象徴的な存在で、多くの国で国旗のデザインとして使われています。ただし、国旗にデザインされている三日月は、象徴的な意味なので、実際の三日月とはちがう形が多いです。



「イスラム諸国の国旗にデザインされた三日月」

(左上) トルクメニスタン (右上) トルコ (左下) パキスタン (右下) マレーシア
三日月の形状と向きを正しく表現しているのは、トルクメニスタンだけです。それでも、月より手前（月面）に恒星が見えるのはあり得ないことです。パキстанは、形は合っていますが、向きが二十七日月になっています。トルコとマレーシアは、太陽光の当たり方を考えると、中心軸よりも端が張り出すことはなく、もともとあり得ない月の形です。



三日月は英語では”crescent”（クレセント）といいます。月齢3の月（三日月）を”new crescent”、月齢27の月（二十七日月）を”old crescent”と呼ぶ場合もあります。この「クレセント」はそのまま、家庭の中の道具の名称にもなっています。教室や家庭の窓についている、あの回転錠です。確かに、回転して錠前の役割をする部分が、三日月の形をしていますね。

「三日月」を冠した生物の名称もあります。「ミカツキゼニゴケ（三日月銭苔）」「ミカツキグサ（三日月草）」などです。いずれも体の一部の形状に由来する和名です。その中でも最も美しいのが、「ミカツキモ（三日月藻）」でしょう。ミカツキモは、学校の池にもいるごく普通の植物プランクトンですが、その美しさでは群を抜いています。多くの種類がありますが、本当に三日月の形をしたものは稀です。



「ミカツキモの一種」 *Closterium sp.* (顕微鏡写真)

学校の池でも、ごく普通に見られるのですが、わずかな水流や傾斜でも流れてしまうので、見つけるのが大変です。反りが弱い種類、強い種類、いろいろあります。これは三日月の形（反り）が強い種類で、なかなかの「三日月ぶり」。

ほかにも身の回りには「三日月」がたくさんありそうです。子どもたちと探してみるのも面白そうですね。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)